

第3回 周南市スマートシティ推進協議会

協議資料

令和4年2月22日
周南市
企画部情報企画課

※本資料は、検討過程の内容であり、今後の調整等により事業内容等は変更されます。

§ 1. 第二回ワークショップ等について

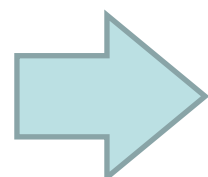
1 第二回ワークショップのまとめ

■ 第二回ワークショップの概要

第一回ワークショップで出された意見をもとに、3つの困りごとが解決された姿を想定し、その姿に至るためにはどのような取組アイデアがあるかについて議論を実施。

▼第一回ワークショップ結果を基にまとめた、「困りごとが解決された姿」

解決された姿	課題
<p>歩いて外出しやすく 健康的な生活を楽しんでいる</p> <p>宅配や遠隔診療等のオンラインサービスを利用できるとともに、身近に買い物、憩う場所があり、気軽に外出もできる。買い物や医療機関の受診と併せて歩く機会をつくったり、公園やスポーツ施設での運動を行い、健康的な生活を楽しんでいる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 地域内を歩いて移動しやすくするためには？ 日頃の買い物をより楽にするためには？ 地域内の場所に、よりお出かけしやすくなるようにするためには？ 健康的に暮らすためには？ 健康づくりのために地域の医療機関やフィットネスクラブ等の事業者へ期待するサービスは？ ウォーキングの習慣を作るためには？ 街中をもっと歩きたくなるような仕掛けは？
<p>遊びや交流、学び等の活動が活発に行われている</p> <p>子供達が、放課後や休日、友達や家族と遊んだり、学んだりしている。地区住民や来訪者が、周南緑地公園を憩いやスポーツ、新たなアクティビティの場として活用し、地域への愛着を深めている。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 周南緑地公園がより若者に利用されるようにするためには？ 地区内の公園や施設を子供たちが楽しく使うための工夫は？ 各施設等で開催される催し物やイベントの情報をより効果的に伝えるためには？ 子供たちや保護者が安心して公園や施設を利用できるようにするためには？ 公園や競技場の利用者がより施設を利用しやすくなるためにあるとよいサービスは？
<p>安全な生活環境の中で、安心して生き生きと暮らせる</p> <p>公園の利用、通勤・通学等において、野犬や自動車、夜間の暗さ等によって生じる危険が抑制されることにより、安全性が確保され、いつでも安心して通勤・通学、外出、屋外での活動を行うことができる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 危険な場所を把握するためには？ 野犬や不審者に関する情報を知らせるためには？ 野犬や不審者から身を守るためには？ 交通事故を減らすためには？ 夜間に安心して通勤通学や外出が出来るようにするためには？



それぞれの課題に対して、取り組めることや取組のアイデアを意見交換

▼第二回ワークショップ（羽藤先生の基調講演+意見交換）



The collage includes:

- A presentation slide titled "周南のスマートシティをどう考えるのか" (How to think about Smart City in Sunan) showing a flowchart of smart city components.
- Photos of Mr. Hazumi presenting and participants in discussion.
- Workshop materials for the first topic: "遊びや交流、学び等の活動が活発に行われている" (Active activities). It includes a map of Sunan Ryokuchi Park with sticky notes and a list of discussion points.
- Workshop materials for the second topic: "歩いて外出しやすく健康的な生活を楽しんでいる" (Easy to go out and enjoy a healthy life). It includes a list of discussion points and sticky notes.
- Workshop materials for the third topic: "安全な生活環境の中で、安心して生き生きと暮らせる" (Safe living environment). It includes a map of the area with sticky notes and a list of discussion points.

§ 1. 第二回ワークショップ等について

1 第二回ワークショップのまとめ

■ 第二回ワークショップの結果について

歩いて外出しやすく健康的な生活を楽しんでいる

今ある活動の強化

- 100歳体操、ラジオ体操、グラウンドゴルフ、ノルディックウォーキングなど、すでにたくさんやられている健康づくりの取組を、地域の中で増やしていく。

地域の魅力あるスポットづくり

- 住宅街の中の小さな公園を人が集まる場にする。(ピザ窯を置く、バスケットゴールを設置するなど)
- 地域内を巡りたくなる仕掛けをつくる。(ウォークラリーの開催、御朱印、テーマに沿ったチェックポイント、など)
- 地域資源をデータ化して集約する。
- 学校空間や、緑地公園のグラウンドなどを活用して活動の場にする。

歩きたくなる動機付け

- 歩いたらポイントがたまるアプリなどを作って、お店などで使えるようにする。
- 健康づくりに参加しやすいように景品を付ける。
- 楽しく参加できるように目標を見える化したりみんなで共有する。

歩きやすい環境づくり

- 歩くルート上に自動販売機やトイレなど、便利な設備をつくる。
- でこぼこの道を歩きやすく整備する。
- 買い物で荷物の宅配・配達サービス利用(今も利用している)

羽藤先生による講評

- 楽しいから健康になるということを一貫して皆さんが言われていたので、色々あるものにもっと楽しいことを重ねていくことは、良いと思う
- 公園にピザ窯(災害時には炊き出しに使える窯となる)を置いたり、地域のスポットを一年間に何回回れるかなど、楽しみを点在していくことが良いと思った
- 楽しむということを健康に繋げ、皆で見える化したり、共有する仕組みをスマートシティで出来ると良いと思う

遊びや交流、学び等の活動が活発に行われている

地域情報の共有

- 情報を発信・共有するポータルサイトなどで、地区内の施設の利用状況の確認や予約ができるようにする。
- イベントなどの情報をチラシにして各戸に配布したり、小中学生の持つタブレットに配信する。

新たなプレイスポットづくり

- 地域で馴染みのあるバスケットボールの屋外コートをつくる。
- 最近の子供や親子で遊びたくなる施設をつくる(室内プレイルーム、スケボー・自転車、など)
- BMXやスケボー等の競技の第一人者が利用できるような施設をつくり、文化を発信。第一人者の練習場が人気のスポットになる。
- 旧徳山商工高校の敷地をプレイスポットに活用する。
- 西緑地を使いやすく綺麗にする。(ホタル増殖、休憩機能整備、キャンプ・BBQ、プレイパークなど)

コミュニティの場づくり

- お菓子教室や親子で畑づくり・芋ほり体験ができるように施設や設備をできるようにする。
- 子どもが遊ぶ間に、親同士が交流できるカフェ等の場をつくる。人が集まることは、自然と子供たちに対する防犯につながる。
- 来訪者を繋ぐきっかけを作るために、子どもが遊んでるのを誰かが見守ってくれる有料サービスを導入。

羽藤先生による講評

- 地域の情報をお互い知るためのポータルサイトはすぐに実現できそうで、あると良いと思った
- BMXやスケボー、ストリート文化などの話があったが、スポーツの凄い人がいて、あの人から学べる、あの人プレイしているといったことがポータルで確認できると活気ある町に繋がるきっかけになるのではないかと
- 情報共有のポータルサイトをここで作っていくことが、遊びや交流、学びが活性化する基盤になるのではないかと。

安全な生活環境の中で、安心して生き生きと暮らせる

新鮮でローカルな情報共有

- 道路の状態(舗装の危険箇所など)や野犬など、地区内の状況を住民がチェックして、アプリなどでリアルタイムな情報を流し、行政が主導で対策する。
- 防災MAPなどで危険箇所を地域で共有する。
- 災害時に素早い対応が可能な情報共有ツールや体制をつくる。

あらゆる人に対する情報共有

- 野犬・交通事故・災害などの危険が一元的に把握できるように、様々な情報を統合し公開する。
- 様々な世代や属性に応じたツールを利用して情報共有。
- アプリを学校の授業で取り上げるなどして多くの人の活用を促す。
- この高さまで浸水した、など災害の実績を現場に記録して見える化する。
- 防災ラジオなどの情報端末を普及する(現在も自治会でしているが全ての人へは難しい)

安心安全な仕組みづくり

- 住民それぞれが外出する時間帯を重ねることで、防災・防犯、見守り機能を高め、街の安全性を高める。
- 地元企業の地域活動への協力や、自主防災組織の活性化など地域コミュニティの強化。

羽藤先生による講評

- インターネットの世界で一番難しいと言われているのは、ローカルな情報の共有である。政治のニュースなどはネットで検索すればわかるが、ここが冠水した、ここで野犬が出たといった身近で起こっていることを共有するのは難しい。その共有が重要な視点と思った。
- 世代の違い、目や耳が不自由な人などを思いやって、情報が届かない人もいるのではないかとという観点でスマートシティの情報をどうやって取るべきか、流すべきかを考えることが重要だと気付かされた
- 通学の時間帯に散歩の時間を合わせるなど、少し皆が重ね合わせるだけで、安全な時間帯や安全な道ができるというのは良いアイデアだと思った。週1回や月1回から試してみると面白い。

§ 1. 第二回ワークショップ等について

2 第三回ワークショップ代替アンケートのまとめ

■ 第三回代替アンケートについて

- ◆ 第三回ワークショップでは、来年度以降の計画作成に向けて、「10年後のライフスタイルを具体化しよう」という題目で、「どこでやるか」「誰がやるか」「どのようにやるか」の3テーマで意見交換を実施予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う「まん延防止等重点措置」が県内全域に適用されたこと等を受け、集団で同じ会場で集まる形式でのワークショップ開催が困難であると判断し、その代替として、参加者に対してアンケート調査を実施。

▼第三回ワークショップの代替として参加者に配布したアンケート用紙

アンケートの概要（実施期間：2022年2月8日火～2月22日火の2週間）

↓ 今年度のワークショップを通して、皆さんで意見交換することで、来年度以降にスマートシティ実現に向けた取組を進めるための5W1Hが明確になってきました。

Why? (なぜやる?)	What? (何をやる?)	Where? (どこでやる?)	Who? (誰がやる?)	How? (どうやってやる?)	When? (いつやる?)
<p>第一回ワークショップ 10/20 (水) 開催</p> <p>日々の生活や活動における困りごとや悩みごと</p> <p>(出された意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ お年寄りが歩いて買い物できる場所が少ない ▶ 子供たちの居場所や集まれる場所が欲しい ▶ 緑地や夜道は暗く、ひとりで歩くのが怖い など 	<p>第二回ワークショップ 12/10 (金) 開催</p> <p>皆さんが取組めること、取組のアイデア</p> <p>(出された意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 歩いてお店まで行くとポイントを付与するなど歩きたくなる仕掛けをつくる ▶ イベントや各種教室を開催 ▶ ローカルな情報を防災マップ等でリアルタイムに共有 など 	<p>第三回ワークショップ 2/14 (月) →中止とし、本アンケートで代替</p> <p>①周南の取組マップをつくろう！</p> <p>(内容) 様々な取組をどこでやるのか？を地図上に落とし込み、「取組マップ」を作り上げる。</p> <p>②周南のプレイヤーを考えよう！</p> <p>(内容) 自分できることは？他にできる人は誰がいる？など今後の取組のプレイヤーとなる人や、団体等を考える。</p> <p>③情報を見える化する周南らしい仕組みを考えよう！</p> <p>(内容) 取組実現のための「情報の見える化」について、どんな仕組みが適しているか考える。</p>			<p>来年度以降に、スマートシティ実現に向けた取組を推進していきます！！</p>

本アンケート調査では、第三回で意見交換する予定だった3つのテーマについて、この説明資料を参考に、回答用紙①～③にご記入ください！！

回答シート①～③を同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らず、令和4年2月22日（火）までに投函してください。

※この説明用シートは同封する必要はありません

§ 1. 第二回ワークショップ等について

2 第三回ワークショップ代替アンケートのまとめ

※2月21日までに到着した回答について、一部修正して記載しています。

Q どんなことをやる？ どこでやる？

周陽公園

- ・児玉公園のように立木を伐採して、視界を良くすることで、清潔感があって防犯にも役立つ。岩国の愛宕山のフクロウ公園のように、防災基地を意識したつくりにする。

周南緑道緑地

- ・緑道を整備して、健康増進を図る器具や遊具を設置する（距離も表示し、各器具には消費カロリーや適応年齢レベルなどを表示）。

周陽小学校・周陽中学校

- ・空き教室を住民に開放する。
- ・学校の部活動が社会体育に移行して、土日祝日はグラウンドを駐車場として利用。
- ・教育の推進(プログラミング教室、英会話、教科ごとの学習・指導、科学実験、習字教室)
- ・小・中学校の教育の見直し(型にはまった画一的、量偏重の教育ではなく、子供のレベルにあった質重視の教育の見直し)。

徳山商工跡地

- ・設備を生かして地域活性化の拠点を作りたい(スポーツの練習会場、文化活動の場〔仕事を終えたお母さんが買い物をされている間、子供さんを預かって一緒に遊ぶような子供ルーム、高齢者の皆さんがゆっくり集まって話し合ったり、お茶を飲んだり出来る部屋〕)。
- ・跡地を活用した新たなプレイスポットの創出(スケボー広場やBMX専用コート)の整備)
- ・周南公立大学看護科実習棟の設置、スケボー会場の設営、スポ少室内競技練習場の誘致。

周南緑地公園西緑地

- ・アクティビティ会場の設営(四輪バギー、バンジージャンプ等)
- ・フリーマーケットが定期的開催されるようになる
- ・ドッグラン施設の設置、飼うことの出来なくなったペットの引き取り施設の設置。ペットショップを誘致して両施設の運営を図ることで、雇用創出、野犬化させない取組みとする。ペットとの共存ができる街づくりの創出。

周南緑地公園

- ・周南緑地をフル活用したスパルタンレース。普段利用がない、樹林帯も活用する。
- ・電動アシスト付自転車の貸し出し、郵便局やコンビニ、市民センター等の空きスペースを活用して自転車の設置。アプリを構築してスマホ等から気軽に自転車の予約を行えるように環境整備。買い物難民対策、健康増進につなげることを目的。西緑地・東緑地にサイクリングコースを作ると3世代で楽しめる場所にもなり得る。

周南緑地公園中央緑地

- ・乳幼児(3歳以下)が遊ぶ遊具や、保護者が快適に過ごせるスペースがある屋内施設を設置する。
- ・【水泳場】県の大会が出来るくらいの屋根付きの立派な施設にしてほしい。
- ・【フレンドパーク】休日、フレンドパーク周辺でキッチンカーでの販売活動。また大道芸の実施。
- ・【陸上競技場】ランニングコースの整備し、ミニ駅伝大会を開催する。
- ・【野球場】津田スタジアム有効利用(芝生に転がって、他地域開催のイベントやスポーツ大会のパブリックビューイング、例：レノファやペイトリオッツ戦)。



周南緑地公園東緑地

- ・親子で楽しめる施設や遊具を設置する。(アスレチックやボルダリング等)
- ・若者が楽しめる施設を設置する。(バスケットコート、スケボー、BMX等)
- ・屋内外でくつろげるオープンカフェや移動販売を誘致する。
- ・スケボーの施設を作ってほしい(できれば全国大会や、欲を言えば世界大会ができるくらいの立派なものを望みます。徳山大学が公立化して多くの大学生が集まり楽しんで練習できる場所になれば他県の若者も集まってくると思われます。若者のパワーで周南市を活性化する拠点になると期待します)。
- ・親子で遊べるようなイベントを開催する。
- ・徳山大学の大学生が小学生にスポーツの基礎をおしえてくれるようなイベントを開催する。
- ・夏休み、冬休み等の主に小学生の遊び場所として解放してほしい。(総合スポーツセンター)

周陽、遠石地区(全域)

- ・駅伝大会の開催。
- ・野犬の出没状況を調べて対策の話し合いをしてほしい。
- ・見守りカメラの設置。通学路を主としてカメラの設置。また、交通事故の多い箇所にもカメラを設置して、対策を行う一助とする。BLEタグを活用して地区をあげて、お年寄りや子供達を守る街づくりを進める。
- ・BLEタグの配布を行い、災害発生時の避難所利用者の一元管理を行うことができる環境づくり。避難所の許容状況を行政が確認できる等のメリットにもつながる。
- ・地区の歴史探訪、ポイントごとにアプリを読み込ませると昔の建造物の写真やその説明を確認することが可能。歴史や成り立ちを知ることで地域への愛着を感じ、また、健康増進につなげる。
- ・一定の要件のもと、高齢者を中心としてタブレットを配布。地域情報(イベント開催、ゴミ出し内容等)を配信し、また、災害時や緊急時の連絡手段として活用。小・中・高・大とも連携を図り、高齢者とのつながりを確保する。
- ・地域の四季(特に東緑地の桜の木)を感じるができるように、子供たちの工夫を凝らした動画等の配信に取り組む。
- ・ウォーキングの推進(ウォーキングマップ、ウォーキングタイム〔登下校時に合わせ、7:00~8:00、15:00~17:00など〕の設定)

周陽市民センター

- ・コミュニティーさんや子供会さんと一緒に、また薯蕷が復活できることを願っています。
- ・夏休み、冬休み等に小学生の遊び場所として解放してほしい。

§ 1. 第二回ワークショップ等について

2 第三回ワークショップ代替アンケートのまとめ

※2月21日までに到着した回答について、一部修正して記載しています。

Q 自分にできることはある？



- 未就学児や小学生の見守りや一時的な預かりは出来ます。
- 小中学生の算数、数学の遅れを取り戻す手助けは出来ます。
- 小・中学生に勉強を教えることができる。塾に行かなくても自分で勉強、高い学力を身に着けることができるように教育格差をなくしたい。
- コロナで活動を中止するまでは、小中学生を対象としたお菓子教室をしていました。
- 周南緑地内を散策し、魅力的な情報やスポットをSNSへ投稿、掲載します。
- 高齢者の方とウォーキング体験、子どもとウォークラリーを楽しみます。
- スポーツの分野において専門性の高い講師の先生方とともに、市民向けの運動教室を開催します。
- 学校として、
 - ・イベント等に児童を参加させる。
 - ・地域の安全マップを作成する。
- 登下校時の見守り。袋小路になっている箇所が多く、交通事故や防犯面の危険と想定する箇所の洗い出し。
- パトロールでマップをつくるには実際に歩いたり、情報を収集する。野犬がいたらその情報を発信する。
- PC、スマホ等の操作を教えることができる。

Q 周りで一緒にできる人、お店、団体を知ってる？



- 公立化された徳山大学の学生さんや徳山高専の学生さんにヤングパワーを発揮していただいて運動サークルの指導や施設、設備の管理運営の補助をお願いできないでしょうか。それらの活動はインターンシップとして学業の単位に加えてほしいと思います。このように地域貢献活動をした学生さんが卒業後も地域の担い手として活躍してくれることと思います。
- 私は周南市の母子保健推進協議会の活動をしています。会員の仲間は子供さんの見守りや、あずかり、遊び相手等は喜んで引き受けてくれる人ばかりです。
- 市内の各種競技団体とともに、初心者教室を開催しよう。
- 周陽、遠石地区の自治会、体育振興会の方と協力し、地区対抗の大運動会を開催しよう。
- 周南市役所と郵便局の包括連携協定の活用。配達バイク・車両等の活用により、高齢者や子供の見守りに活用等。
- 周南市防災機器管理課、防災アドバイザー制度の活用。避難上運営の在り方等について検討。また、災害状況確認のためのドローン技術向上に向けた取り組み。
- 上馬屋の休耕田を活用した食育取組み。子供や学生と地域の方と共に取り組むことのできるように働きかけ。
- 野犬対策を一緒に手伝ってくれる企業などを募って参加してもらおう。野犬情報をドローンで発信してわかるように（共有）する。
- ウォーキング仲間を数人集めることはできます。

§ 1. 第二回ワークショップ等について

2 第三回ワークショップ代替アンケートのまとめ

※2月21日までに到着した回答について、一部修正して記載しています。



どんな情報が「見える化」できたらいい？
その情報をどうやって上げやすい？

情報を
上げる



どんな情報が欲しい？
それをどうやって「キャッチ」できる？

情報を
受け取る

- 市内で開催されている各種スポーツ大会の情報、結果、速報が見える化したい。それぞれがそれぞれで掲載等している状況なので、一元化したサイトを作成し、集約する。
- イベント情報
主催者の枠をこえて、一つのサイトで見える化。主催者側にサイトに載せると集客できるとしてもらえるような、知名度の高いサイトを作る必要がある
- 小・中・高・大のイベントや地域の情報が見える化する。特に高齢者が容易に確認できるようにタブレット配布等の対応が必要。
- フレンドパークの混み具合が見える化したい。フレンドパークの特設サイトを作成し、遊具の紹介や混み具合、開催イベント、キッチンカー情報を掲載する。
- 市民（子ども）の安心・安全につながる情報→投稿アプリを運用する。
- 施設の予約状況、人数、時間制限を知り、空いていれば手軽にその直後に予約ができるシステムをつくる。
- 麒麟ビバレッジスポーツセンターの駐車場等に定点カメラを設置する。満車状態の把握や防犯に役立てる。
- 市広報等は小中学校の児童生徒が1人1台持っている、タブレットに一斉送信する。
- 災害発生箇所や危険箇所を写真に収め、周南市の特定アプリに投稿。リアルタイムで確認ができるようにシステム構築。但し、投稿者が明確に出来る等の条件が必要。
- 町民のアナウンスなど帰宅のサイレン、緊急時の連絡をサイレンや言葉で放送していく。野良犬を発見したら情報をどこにあげたらいいか。
- 医療機関の情報
女医さんがいる、・土日の診療（薬局も含めて）、混み具合の確認や予約も一緒にとれると良い。

- 悪天候時の通勤経路の道路の状況、混み具合を知りたい。スマホで、リアルタイムな道路状況を表す映像の閲覧ができるようになってほしい。
- 市民（子ども）の安心・安全につながる情報
投稿アプリの無料ダウンロード、電子掲示板の設置
- 施設が有料であれば、予約の時にスマホで決済できるシステムをつくる。
- 満車とわかれば、事前に車を乗り付けない。
- 小中学校の児童生徒が毎日持って帰るタブレットを家族が見て、市の状況を把握する。
- 地域の局所的大雨や災害発生時に、近くの地域情報をスマホなどで早めに知りたい。
- 市民センターに行けば地域内のイベントや予定などが掲示されていてまとめて見られるようになっているといい。
- 高齢者を中心としてタブレット等の通信機器を配布。あらゆる情報を知り得るツールとして活用することが可能となる。
- 野良犬の情報が欲しい。アプリでわかるように
- 町民のアナウンス。帰宅時刻のサイレンアプリなどで確認メール
- 地域、イベントのカテゴリーなどを予め登録しておき、イベント情報が更新されるとスマホに通知やメールが届く。

§ 1. 第二回ワークショップ等について

3 ワークショップ等のとりまとめイメージ

第一回ワークショップで出された地域の課題を整理し、「困りごとが解決された姿」を3つ設定した。その実現に向けて、第二回ワークショップと第三回ワークショップ（代替アンケート）によって、具体的方法（What[何をやるか]、Where[どこでやるか]、Who[誰がやるか]、How[どうやってやるか]）についての意見交換を実施した。

それらの結果は、下記のように、5W1Hの形で整理をすることによって、来年度以降の取組（事業計画）への反映をする予定。

課題が解決された姿	Why? (なぜやる?)	What? (何をやる?)	Where? (どこでやる?)	Who? (誰がやる?)	How? (どうやってやる?)
歩いて外出しやすく、健康的な生活を楽しんでいる					
遊びや交流、学び等の活動が活発に行われている					
安全な生活環境の中で、安心して生き生きと暮らせる					

第三回ワークショップ（代替アンケート）の結果を踏まえて、今後整理予定

来年度以降の取組（事業計画）への反映

§ 2. 事業計画（素案）

1 事業計画（課題と施策案）

※アンケート、企業ヒアリングが完了していないなど、まだ検討や調整を必要とする内容を多く含んでいますので、今後、事業内容等は変更されます。

方針	ワークショップで得られた課題	デジタル技術等の活用		(参考) ハード対策	
		短期的な施策案	中長期的な施策案		
ウェルネス化	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 坂道が多い地形を踏まえ、お年寄りの<u>徒歩移動</u>に対するサポートが必要 お出かけを促進する地区内での催しや講座等に関する<u>情報提供</u>が必要 自宅から気軽に買い物に出かけられる<u>場所の確保</u>が必要 歩く楽しみや自らの<u>健康を実感できる仕組み</u>が必要 	<p><u>山口健幸アプリ等との連携による外出機会の創出・歩く楽しみの提供</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ウォーキングデータ(コース・頻度等)から新たなコース設定(地域の方と一緒にコースを探索・設定) 講座と参加者の体力・健康データとの結び付けによるAIを用いた健康指導 ウォーキング実績に応じたポイントの付与 バーチャル空間におけるウォーキングコースの確認(外出ができない方向け) 	<p><u>健康情報の一元管理による継続的なウォーキングや外出の促進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 健康情報や健診データ、ウォーキング等の活動状況をかかりつけ医と連携した健康管理 高齢者の外出頻度の減少を自動検知し、本人への通知等による外出促進、遠方の子供等への見守り通知 	ウォーキング・ランニングステーションの設置
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> 歩くとポイントが付与される等の<u>歩いて買い物したくなる仕組みづくり</u>が必要 <u>ウォーキングイベント等歩きたくなるきっかけづくり</u>が必要 ウォークラリーのチェックポイントを設置するなど<u>地区内に歩いていきたくなる場所づくり</u>が必要 共通の目標を持ったウォーキングを促進する等<u>目標を見える化する</u> 自販機やトイレなど<u>ウォーキングルート</u>の環境整備 	<p><u>ウォーキングイベントの開催によるモチベーションや外出機会の創出</u></p> <ul style="list-style-type: none"> チャレンジ目標やミッションを設定し、ポイントを付与 ウォーキングコースのチェックポイントでの情報発信(野犬やイベント等の情報提供) 	<p><u>個々のデータに基づいた最適な運動計画や健康情報の提供</u></p> <ul style="list-style-type: none"> AIによるウォーキングコース提案 データに基づく健康状態の判定や改善提案 <p><u>オンライン健康増進プログラム(オンラインインストラクター)の開催</u></p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインによる場所にとらわれない健康プログラムの提供 	
ホームタウン化	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 周南緑地公園等地区内で、若者に支持される新たな<u>アクティビティ</u>が必要 <u>公園(スポーツ施設)施設利用者の飲食等</u>を支える機能が必要 公園等、地区内で開催される催し物やイベントに関する<u>効果的な情報提供</u>が必要 	<p><u>人流データの収集によるニーズや課題の把握・整理</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 周南緑地公園利用状況(人の動き・滞留状況)のモニタリングによる見える化(WiFiスポットで検知されたスマホの情報で公園内の人流を可視化) AIカメラを活用したフレンドパーク内の人の集まり状況の可視化(属性判別で親子連れが多い時間帯を判別し、その時間帯に人が集まり交流が生まれる環境づくり) 高齢者を対象に、公園に来た方に毎日ポイント付与 	<p><u>人流データの分析による地域課題の解決や賑わいの創出</u></p> <ul style="list-style-type: none"> エリアでの人流(滞在人口、滞在時間、建物間のOD)を用いた、効果的な移動式店舗やデリバリーサービス 公園内の人の多さの状況を周辺店舗と共有した移動販売による活性化 EV車による公園内の移動支援と移動ニーズの把握(公園内巡回バス等の導入検討) 	公園施設のリノベーション(憩いの場、カフェ等) 移動販売車の配置 EV車両の導入(公園内の円滑な移動) バスケットコート・ニュースポーツ施設の設置
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> 色々な人が楽しめる総合的施設としての<u>新しいプレイスポットづくり</u>が必要 子供を遊ばせに来た子育て中の親同士が繋がるなど、来訪者をつなぎ情報交換の場となるような<u>コミュニティづくり</u>が必要 体育館やグラウンドなどの施設の利用状況などの<u>情報の集約と共有</u> 	<p><u>交流の場を設定することによる地域コミュニティの強化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット等を活用した学び、リモートを活用したワークショップを開催 地区内の遊び、学び等プログラムに関する情報集約、登録者や地区滞在者への通知 	<p><u>講師と受講者、利用者間等のマッチングサービス</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 教えたい人と教わりたい人のマッチングによるサービスの充実 コミュニティや情報共有の場の提供 施設の利用促進 <p><u>施設予約システムの構築による施設の利活用、利用促進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の利用状況や空き状況、予約受付等の情報の集約と共有 	

§ 2. 事業計画（素案）

1 事業計画（課題と施策案）

※アンケート、企業ヒアリングが完了していないなど、まだ検討や調整を必要とする内容を多く含んでいますので、今後、事業内容等は変更されます。

方針	ワークショップで得られた課題		デジタル技術等の活用		(参考) ハード対策
			短期的な施策案	中長期的な施策案	
セーフティタウン化	第1回	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムに野犬の出没情報を把握でき、野犬との遭遇の確率を低減させる仕組みが必要 夜の暗さや交通事故の危険性を気にせず、安心して外出できる公園内や道路環境の改善が必要 子供や高齢者が安心して行動できる見守りの仕組みが必要 災害も含めたリスクに関する情報共有の仕組みが必要 	<p>危険な情報のリアルタイムな提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 野犬や不審者の出没情報の提供、リアルタイムでの通知 道路陥没等の情報提供、リアルタイムでの通知 野犬、道路陥没等の情報提供者にポイントを付与 	<p>AIによる危険の予測や排除</p> <ul style="list-style-type: none"> 不審者や野犬をAIカメラで検知しデータとして蓄積することで出没傾向の把握、リアルタイムでの通知、近づけない仕組みの構築 <p>スマート街灯の設置による夜間の公園内や道路環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 日照と人や車の流れに応じた照度のマネジメント 人流データ分析(WiFiスポットから人流を把握:場所、時間帯)から効果の高い箇所にスマート街灯を設置 野犬が嫌う周波数の発信機の設置による野犬対策 	<p>安全な道路空間(安全に動ける道路整備)</p> <p>EV車の充電スポット整備</p> <p>ローカル5G基地局整備</p>
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> 危険情報に対してローカルでリアルタイムな情報の共有 住民の生活時間帯に合わせた防災・防犯活動、見守り 野犬・交通事故・災害の危険情報の一元的な公開 世代・属性に応じたツールでの情報提供 (スマホの無い人などにも届く情報提供) 災害の実績の記録 	<p>子供や高齢者の見守り・安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> AIカメラ等を用いた見守りサービスの提供 高齢者、子どもが所持するスマホからWiFi接続状況を特定し見守りサービスの提供(徘徊老人) 	<p>災害時の防災拠点化</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時におけるEV車両を用いた電源スポット、ローカル5Gの設置により、地域住民の情報収集の確保 電力確保による周南緑地施設の防災拠点化 	

§ 2. 事業計画（素案）

2 事業計画：ロードマップ案

※アンケート、企業ヒアリングが完了していないなど、まだ検討や調整を必要とする内容を多く含んでいますので、今後、事業内容等は変更されます。

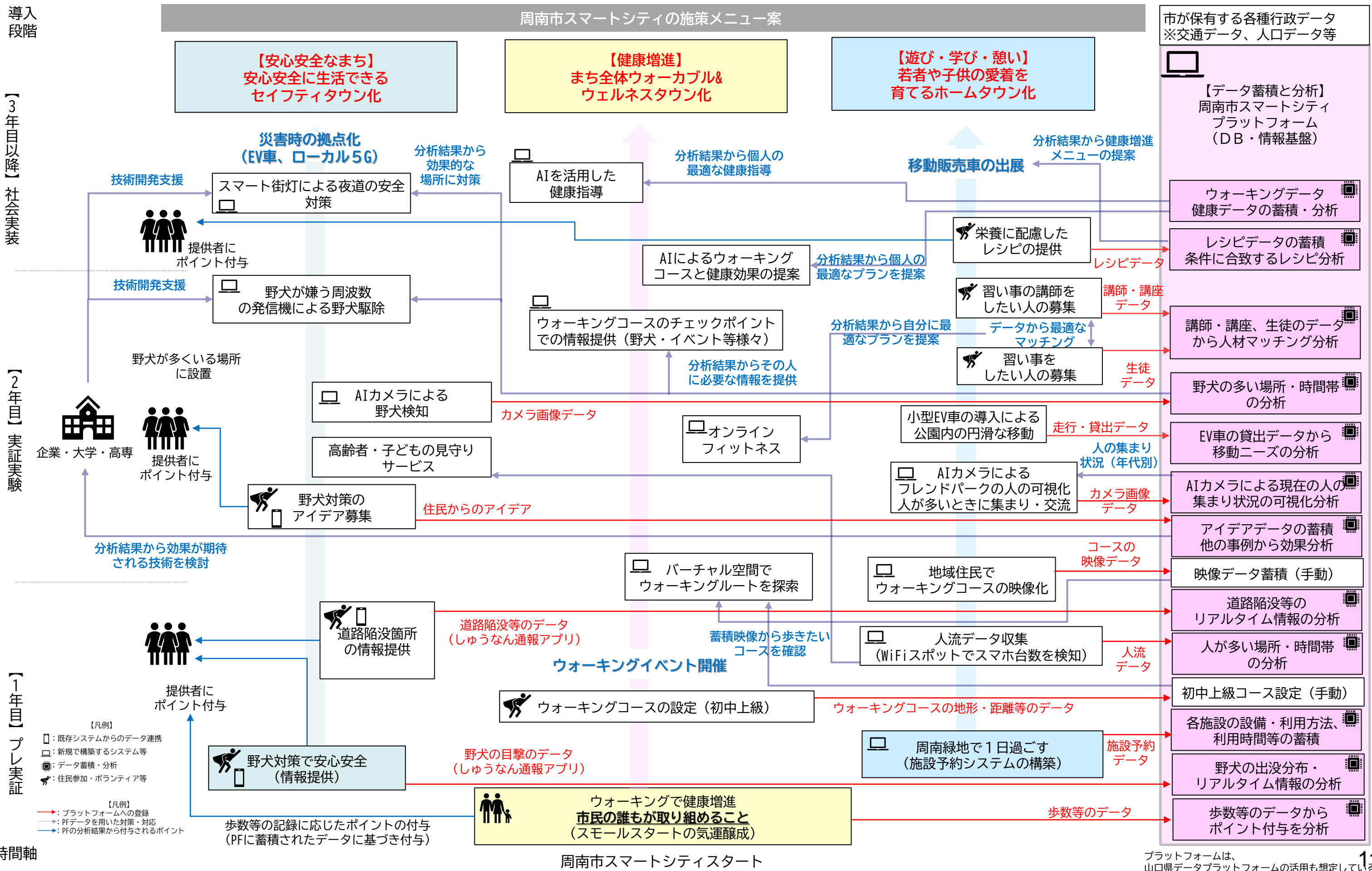
■ 事業計画の立案にあたって記載項目案を以下に示す。

成果	時期	検討時	1年目	2年目	3年目以降
想定するゴール (R3は実績)		<ul style="list-style-type: none"> モデル地区の選定（周南緑地） モデル地区住民との課題共有 次年度以降の事業計画の企画立案（概算事業費の試算） スマートシティ推進協議会の運営 	<ul style="list-style-type: none"> プレ実証実験 次年度の事業計画の立案 短期の概算事業費の算出 コンソーシアムの設立（メンバー選定） 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験 次年度の事業計画の立案 短期の概算事業費の算出 コンソーシアムにおけるビジネスモデルの検討（企業間連携） 	<ul style="list-style-type: none"> 社会実装 次年度の事業計画の立案 コンソーシアムによる運営の開始
実証等 (プレ実証～社会実装)		<ul style="list-style-type: none"> ワークショップによるモデル地域の課題とニーズの把握 講演会による地域住民等へのスマートシティの必要性の説明 プレ実証の実施内容の整理 	<ul style="list-style-type: none"> プレ実証実験の協力企業の募集 プレ実証実験の実施 プレ実証実験から得られたモデル地区における新たな課題、ニーズの把握と分析 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験の協力企業の募集 実証実験の実施 実証実験から得られたモデル地区における新たな課題、ニーズの把握と分析 	<ul style="list-style-type: none"> 他の地域への展開の検討 スマートシティの恒久的な実施を実現するための市財政のキャッシュフローの継続的な分析
		ワークショップ・推進協議会の開催	実験結果等を組織づくりにフィードバック	より密に実験と組織を関連付け実態に即した組織づくり	社会実装に向けた連携
組織作り		<ul style="list-style-type: none"> スマートシティ推進協議会の設立 コンソーシアムの役割等の定義 コンソーシアムの事例収集 コンソーシアムの構成案の整理（他事例の調査、整理） 	<ul style="list-style-type: none"> スマートシティ推進協議会、コンソーシアムの関連性・協力体制等の整理 コンソーシアムの形成（連携できる事業者との連携による実証実験の実施） 	<ul style="list-style-type: none"> コンソーシアムの形成（幅広い主体の募集と事業提携へのチャレンジ） 	<ul style="list-style-type: none"> コンソーシアムの形成（実践を踏まえた持続可能なコンソーシアムの構築）
		ワークショップ・推進協議会の開催	推進協議会にてデジタルデータの活用検討	推進協議会の承諾によるデジタルデータの活用	デジタルデータの蓄積・運営
情報基盤 PF構築		<ul style="list-style-type: none"> プラットフォーム（PF）導入の決定 企業ヒアリングに基づく要素技術と情報基盤の整理 	<ul style="list-style-type: none"> PFの構築・運営企業の検討、選定 要素技術の保有企業からのデータ連携の仕組みの構築（アプリ等からAIP連携等） 	<ul style="list-style-type: none"> PFの試行で構築 	<ul style="list-style-type: none"> PFの構築、本運用開始
主体	行政	→			
	民間		→	→	→

§ 2. 事業計画 (素案)

3 デジタル技術等の導入とデータ連携のイメージ

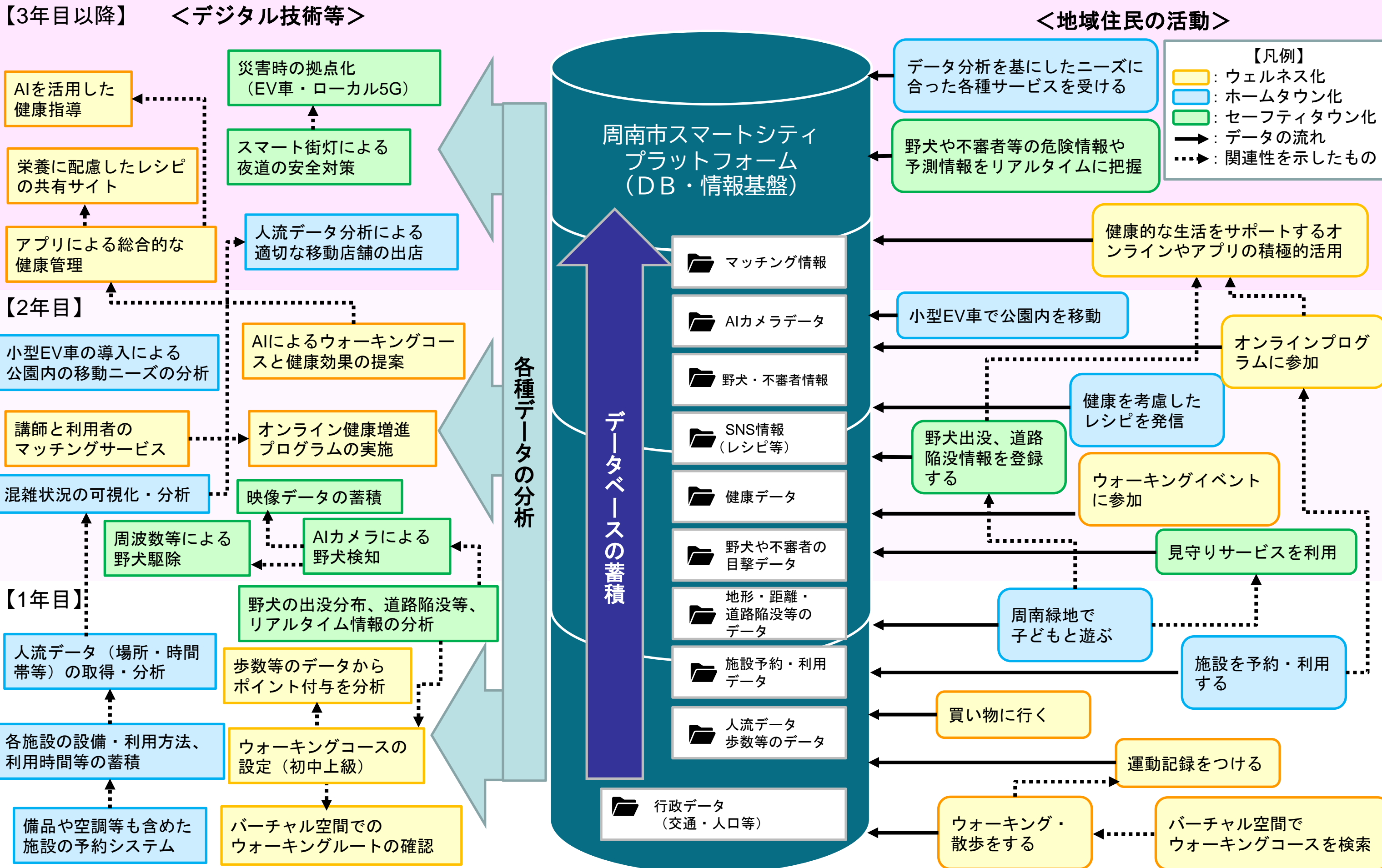
※アンケート、企業ヒアリングが完了していないなど、まだ検討や調整を必要とする内容を多く含んでいますので、今後、事業内容等は変更されます。



§ 2. 事業計画（素案）

4 データ連携・データプラットフォームのイメージ

※アンケート、企業ヒアリングが完了していないなど、まだ検討や調整を必要とする内容を多く含んでいますので、今後、事業内容等は変更されます。



§ 2. 事業計画（素案）

5 1年目（プレ実証実施年）の取組イメージ

※アンケート、企業ヒアリングが完了していないなど、まだ検討や調整を必要とする内容を多く含んでいますので、今後、事業内容等は変更されます。

スマートシティ取組方針

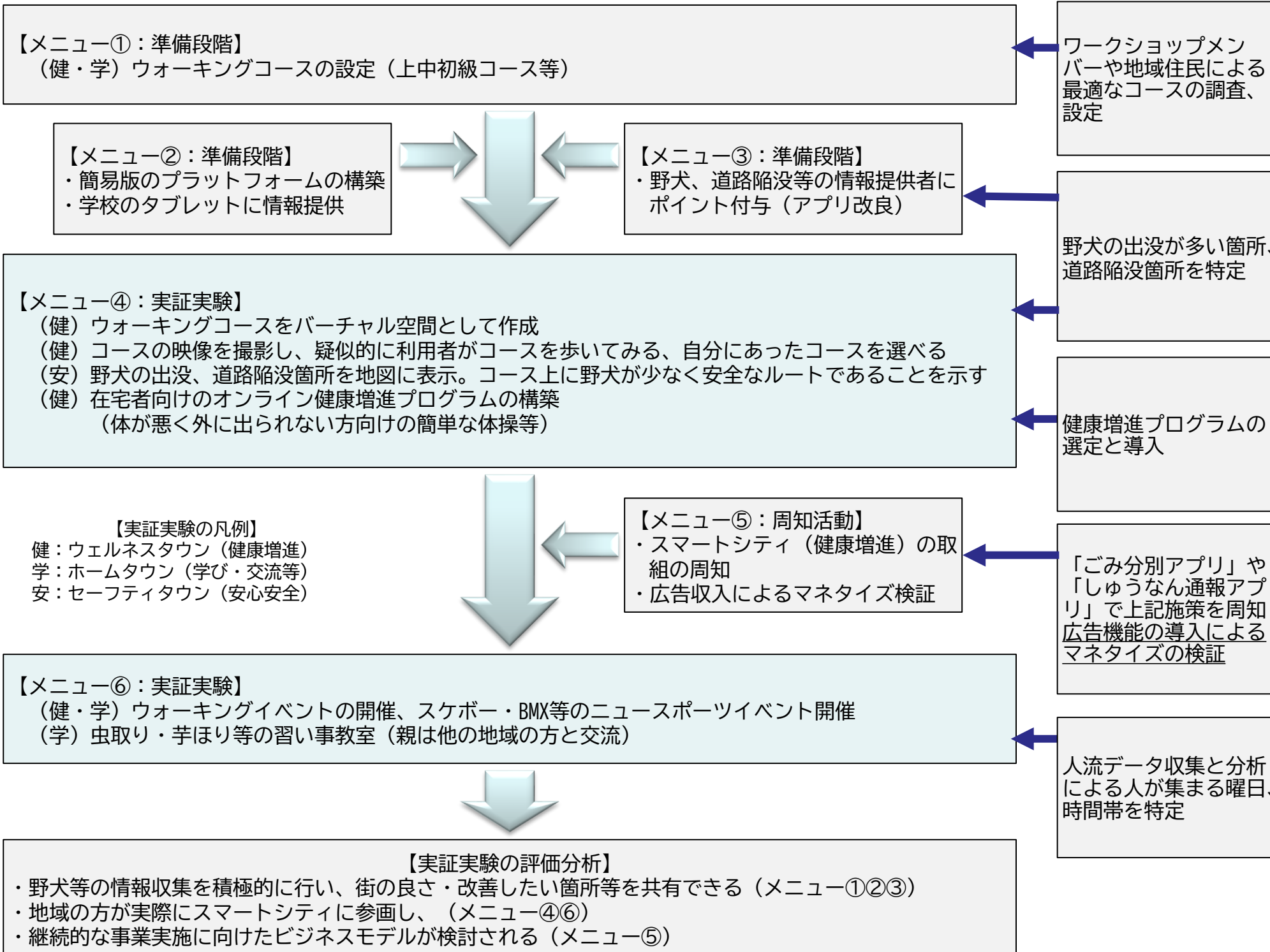
- ・長期的に健康増進の取組を続けられる
- ・取組が生活の一部になる（自宅にいる方も参加できる）

- ・地域の方が一緒になって遊び、学びや交流が自然と行える
- ・教えたい人と教わりたい人のマッチング

- ・安心して健康増進、学び等に取り組める
- ・交流や遊びの組が見守り等の地域の安心安全に寄与する

安心安全な空間で、学び・遊びの中から自然と健康増進につながるスマートシティ

1年目の施策メニュー案（スモールスタート：健康増進）



ヒアリング結果（キーワード等の抜粋・代表事例）

【技術に関すること】

- ・ニーズ分析による適切な移動販売店舗の出店の仕組み
- ・不審者判断等のAIカメラの実証実験、混雑状況の把握を行う仕組み（屋内）
- ・スマホカメラ画像からバイタル測定を行う仕組み
- ・健康管理をクラウドで行うシステム
- ・Wi-Fiで人の流動を把握するシステム（実証実験段階）
- ・EV車の実証実験
- ・AIによる最適な配車、最適ルートを導く仕組み
- ・歩き方から健康状態を把握する仕組み

など多数

【スマートシティに関する意見等】

- ・外出できない方がバーチャル空間でウォーキングコースを確認できると意識向上につながる（事前にコースの確認ができる）
- ・運動する意味（弱体化するなど）の周知が必要
- ・既存の施設の有効活用（教えたい人と教わりたい人のマッチングを行う仕組み）
- ・周南緑地で1日過ごせるような施策が必要（カフェ、温泉、遊ぶ場所等）
- ・一般の方がインターネットを利用して、施設の予約を行うシステムが必要（ポータルサイトで予約・情報配信などの一元管）
- ・監視カメラ等の設置による安心安全策が必要
- ・事業縮小とならないようなデータの使い道や経済的効果の追求が必要
- ・アプリを普及するには無料であることが重要

など多数

【スマートシティの進め方等に関すること】

- ・スモールスタートに加えて、アジャイル開発で事業を進めることが重要
- ・普段使いできるアプリが望ましい
- ・データが自然とプラットフォーム等に登録される仕組みを構築することで事業の継続性が高くなる

など多数

§ 3. スマートシティの実現に向けた体制について

1 スマートシティコンソーシアムの構築に向けて

■ 全国におけるスマートシティ推進の取組

令和元年に国の関係府省が連携して設立したスマートシティ官民連携プラットフォームには、現在871の団体が登録されており、民間事業者、研究機関、自治体等が連携してスマートシティ実現に向けて取り組んでいます。

■ スマートシティの類型

スマートシティは、対象エリア、目的、取組内容や中心的な役割を果たす主体等により、様々な形が考えられますが、内閣府によると、主に典型的なものとして、「行政主導型」と「エリアマネジメント型」があるとされています。また、組織形態からは「協議会型」と「コンソーシアム型」の2種類がみられます。

資金調達	行政主導型	<ul style="list-style-type: none"> 行政が中心となって、スマートシティを主導する。 行政は組織の組成、ルールづくりや、計画(戦略)策定等を主宰・主導するほか、計画の進捗状況を調整する。
	エリアマネジメント型	<ul style="list-style-type: none"> 地域まちづくり団体及び地方公共団体が主導する。 行政は、地域まちづくり団体等と協働し、組織の組成、計画(戦略)策定等を牽引するほか、地域まちづくり団体の活動をサポートする。
組織形態	協議会型	<ul style="list-style-type: none"> 地域の企業や自治体など、多くの主体が会員として参加する会議体により、各主体の活動を調整する。 市民参加と産官学民携が特徴。
	コンソーシアム型	<ul style="list-style-type: none"> 自律的な活動組織(一般社団法人やNPO等)を設置して運営を行う。

■ スマートシティの活動主体のタイプ

スマートシティの活動主体のタイプは、資金調達×組織形態から、以下の4タイプに整理されます。
※スマート指定官民連携プラットフォームに登録されている組織の形態を明確に区分することはできませんが、典型例として示すものです。

		組織形態※	
		協議会型	コンソーシアム型
資金調達	行政主導型	■タイプ1 行政が事務局となり、多様な主体の参画のもと協議会メンバーが調査研究・事業を実施。	■タイプ2 行政が主となり、民間事業者の出資も募りながら設立する運営組織。主に公共サービスを提供することを目的とする。
	エリアマネジメント型	■タイプ3 一定のエリア内の事業者や住民からの寄付や会費等を募り、協議会の運営や各種事業を行う。	■タイプ4 一定エリア内の事業者や住民に対するサービス提供や独自の資金調達等を行い自律的に活動を展開。

【タイプ1】行政主導型・協議会型

●事例：会津若松市
 会津若松市が全体統括等の中心機能を担いつつ、多数のステークホルダーで構成される「会津若松市まち・ひと・しごと創生包括連携協議会」と、市・会津大学及び地元企業を中心として構成される「会津地域スマートシティ推進協議会」が、それぞれ連携・役割分担をして、スマートシティを推進・実現している。

【特徴】 ・活動の目的を共有しながら、多様な主体の知恵や技術、ノウハウを活かすことができる。	【留意点】 ・多様な主体の利害調整、不公平感を生まない工夫などが必要。 ・新たに参画を希望する企業等が比較的容易に参加が可能なオープンな組織とすることや、柔軟な運営が求められる。
--	--

【タイプ2】行政主導型・コンソーシアム型

●事例：松山スマートシティ推進コンソーシアム
 主に「交通」をテーマに活動。全体の取りまとめは松山市と公民学連携組織である「アーバンデザインセンター(UDCM)」が担当し、必要に応じて地元企業や愛媛県などとも連携をはかる体制。

【特徴】 ・公益性の高いテーマに適し、主体を明確化した持続的な活動がしやすい	【留意点】 ・行政の資金が主となることから、民間の創意工夫をうまく活かす工夫が必要。
--	--

【タイプ3】エリアマネジメント型・協議会型

●事例：Fujisawa SST(サステイナブル・スマートタウン)協議会(藤沢市)
 パナソニック株式会社の工場跡地について、2010年にパナソニックと藤沢市が街づくりに関する基本構想を作成し、その基本構想に賛同する企業や大学など18団体(2020年3月現在)が参画する「Fujisawa SST協議会」によって街づくりが行なわれている。

【特徴】 ・代表企業の強みを生かした領域の事業展開が可能。 ・民間主体で進められるため、スピード感を持った推進が可能。	【留意点】 ・市民からの信頼獲得(関係者からみた公平性の確保) ・収益性の低い事業への企業の参加が期待できない可能性がある。 ・組織の自主性の担保が難しい。 ・関係主体が増えるとスピード感が低下する懸念がある。
--	--

【タイプ4】エリアマネジメント型・コンソーシアム型

●事例：柏の葉スマートシティコンソーシアム(柏市)
 三井不動産とともに、行政・民間企業・大学で構成される柏の葉アーバンデザインセンターが統括組織の役割を果たしており、住民・行政・大学・民間企業が幅広く連携して運営するスマートシティへ発展している。

【特徴】 ・事業主体が明確になり、資金調達や資金管理がしやすい。	【留意点】 ・テーマの選択が収益性に左右される可能性がある。 ・民間企業による資金調達が主となるため、公共事業と比較すると経済環境の変化の影響を受けやすい。
--	---

内閣府資料：https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/a-whitepaper2_200331.pdf
 松山市におけるスマートシティ実現に向けた取り組み：https://www.uit.gr.jp/gijutu/file/02/e02_r01.pdf
 Fujisawa SST：<https://fujisawasst.com/JP/>
 Fujisawaサステイナブル・スマートタウン土地区画整理事業：
<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/tosei/machizukuri/tochi/kukaku/shikochu/kukakuseri.html>
 スマートシティ開発を支える投資ファンドの研究：<http://www.trust-mf.or.jp/business/pdf/download/20210324.pdf>

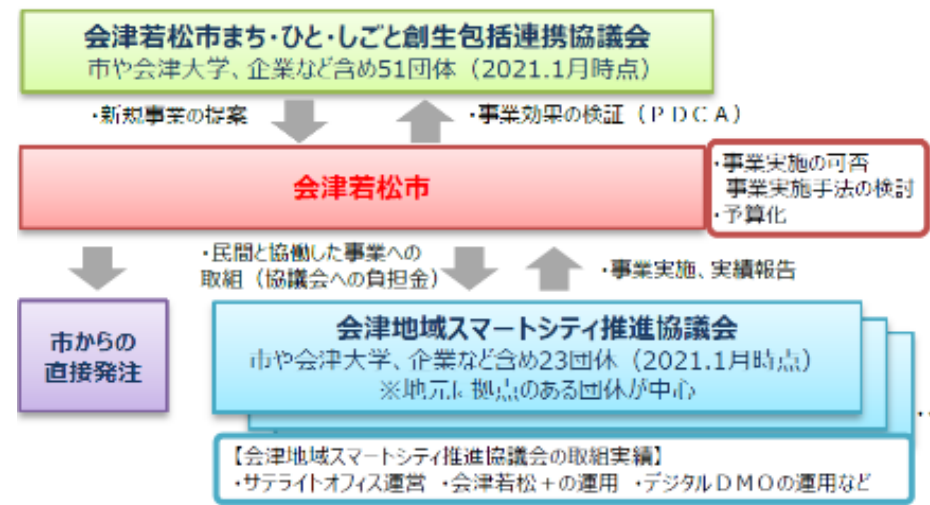
§ 3. スマートシティの実現に向けた体制について

1 スマートシティコンソーシアムの構築に向けて

■ スマートシティ推進体制の事例

● 【タイプ1】 行政主導型・協議会型 …会津若松市

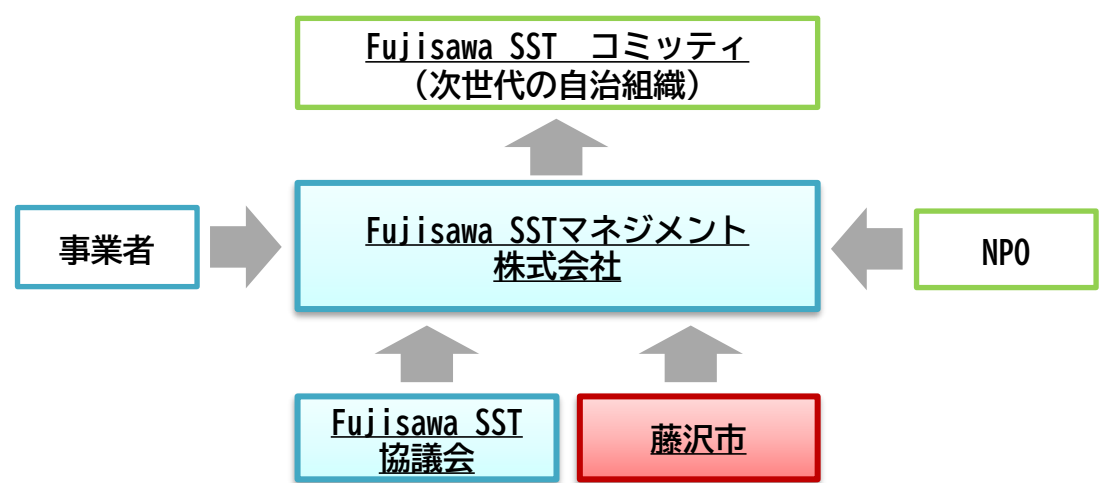
- スマートシティ推進協議会においては、会津若松市が事務局として参加しながら、スマートシティ施策が実行されている。
- 全ての施策が協議会で実施されるのではなく、市からの直接業務委託や、他の官民連携した協議会等や民間企業が実施する例も複数存在する。
- 包括連携協議会においては、KPIに基づく同市のスマートシティの進捗状況の評価やフィードバックを行う役割を担っている。



内閣府「スマートシティガイドブック（概要版）」 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/smartcity/00_scguide_s.pdf

● 【タイプ3】 エリアマネジメント型・協議会型 …藤沢市

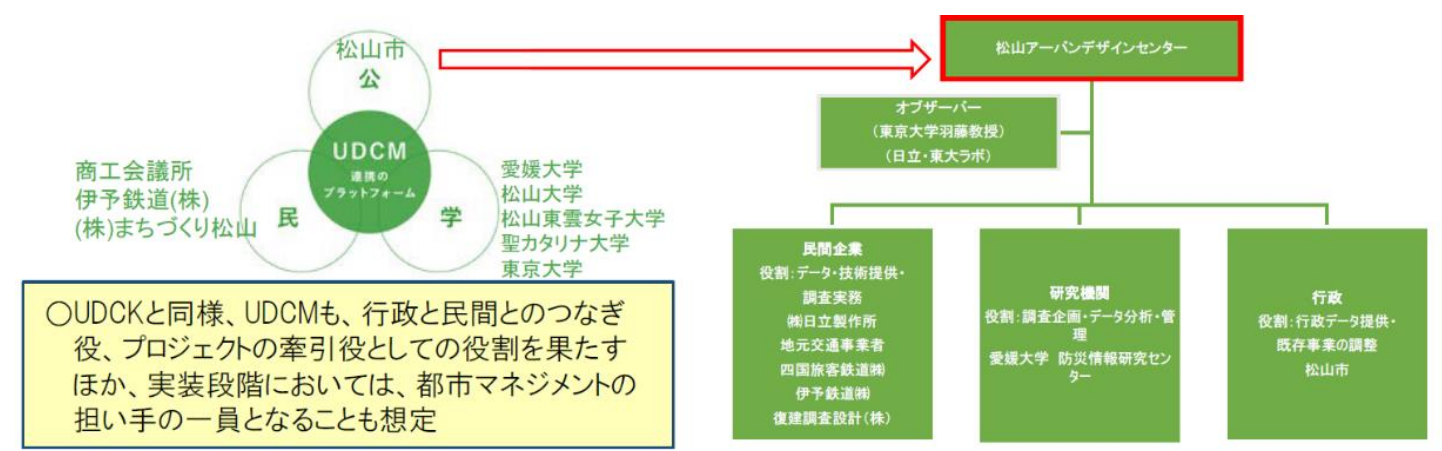
- 従来の自治会の役割に加え、環境・エネルギー、安心・安全の様々な活動や所有資産の維持管理までを行う役割を持った自治組織として、「Fujisawa SST コミッティ」を設けている。
- 「Fujisawa SST コミッティ」でうまれた声を拾い上げ、個々のサービスやシステムへと具現化する企業体組織「Fujisawa SST マネジメント株式会社」を設立。パートナー企業や藤沢市、周辺地域の自治体などとの交渉も担当。



Fujisawa SST コンセプトブックをもとに作成 https://fujisawasst.com/JP/wp_jp/wp-content/themes/fujisawa_sst/pdf/FSST-ConceptBook.pdf

● 【タイプ2】 行政主導型・コンソーシアム型 …松山市

- 松山アーバンデザインセンター (UDCM) が、市・民間事業者・大学による公・民・学連携組織のプラットフォームとして、市と民間事業者とをつなぎ、市民を巻き込みプロジェクトを牽引するとともに、都市マネジメントの担い手の一員となることも想定されている。
- 「交通」がテーマとなり、民間企業としては、データ集約基盤等の技術的な検討を担う事業者、鉄道事業者、人流データ調査実務を担う事業者等が参画し、必要に応じて、地元企業や愛媛県などとも連携をはかっている。

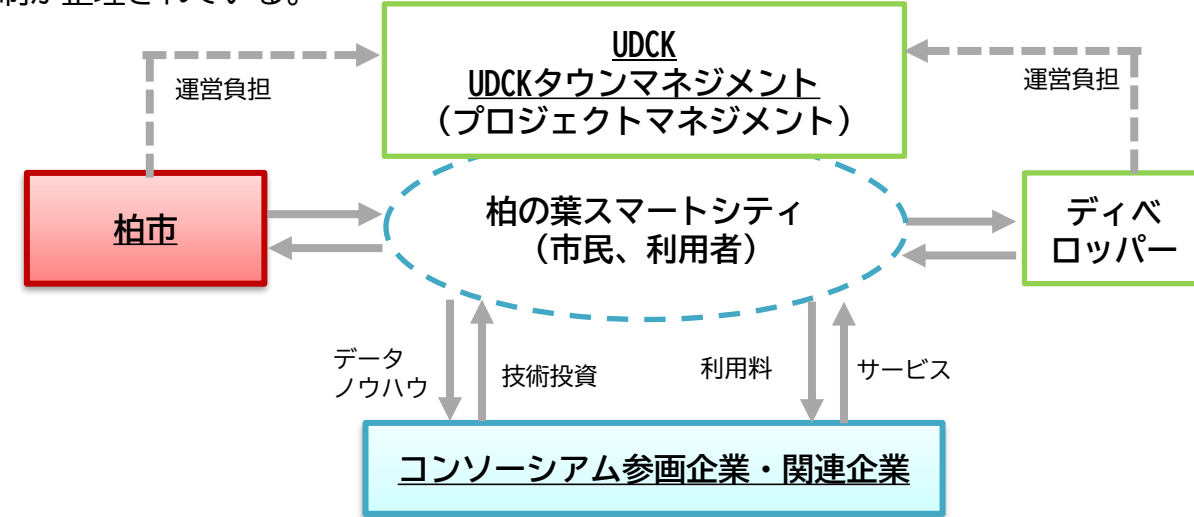


○UDCKと同様、UDCMも、行政と民間とのつなぎ役、プロジェクトの牽引役としての役割を果たすほか、実装段階においては、都市マネジメントの担い手の一員となることも想定

国土光津省「スマートシティについて」 https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/reform/committee/20191209/shiryu2_3.pdf

● 【タイプ4】 エリアマネジメント型・コンソーシアム型 …柏市

- 柏の葉スマートシティ実行計画（令和2年3月）では、柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) を中心として、UDCKタウンマネジメント、柏市、ディベロッパーをキープレーヤーとして、様々なプレーヤーが連携する推進体制により、取組みを展開することが示されている。
- また、モビリティ、エネルギー、パブリックスペース、ウェルネスの各分野において、取組み内容や推進体制が整理されている。



図は、柏の葉スマートシティ 資料を基に作成 https://www.kashiwanoha-smartcity.com/images/pdf/200807_plan.pdf